

# 耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。節分も過ぎ、春が待ち遠しい季節ですが、まだまだ寒い日が続きます。くれぐれもご自愛ください。昨年からは般若心経の意味を学んでいくかわら版。生き方や社会のあり方を考える際の道標(みちしるべ)です。

今月は「故知般若波羅蜜多(こちらみろみたら)の八文字」。

「般若波羅蜜多」は五回目の登場です。すっきり理解した、身についたと思いたいところですが、ご心経は奥深いので、何度も復習が必要ですね。「般若」は広く深い知恵のこと。「波羅蜜多」はこちらの岸(此岸、しがん)からあちらの岸(彼岸、ひがん)に渡ることを指します。「般若波羅蜜多」は広く深い知恵で彼岸に渡つて悟りの境地に達すること。

「故」と「知」は文字どおり。「般若波羅蜜多」を「知るが故(ゆえ)」にということですね。

ご心経には「般若波羅蜜多」が六回、「無」が二十一回、「空」が七回も登場します。たくさん登場するということは、きつと大切なことだからでしょう。そういえば、お大師様は若い頃に「無空」と名乗っていました。

私たちの体(からだ)は「色受想行識(しきじゆそうぎようしき)」の「五蘊(ごうん)」からなり、「眼耳鼻舌身意(げんにびぜっしんに)」という「六感」で「色声香味触法(しきしょうこうみそくぼう)」を感じます。

そこから、さまざまに煩悩、欲望、四苦八苦が生じます。しかし、からだが無(亡)くなつてしまえば、つまり「空」になれば「五蘊」も「六感」もなく、煩悩、欲望、四苦八苦からも解放されまします。そうした本質を知ることが「般若波羅蜜多」です。

難しいようで、何かわかったような、わからないような:(笑)。是非、去年のかわら版で関係す

る部分を復習してみてください。

そして「般若波羅蜜多」を体得するための修行が「波羅蜜多行」。布施(ふせ)、持戒(じかい)、忍辱(にんにく)、精進(しんじん)、知恵(ちえ)の六つの行動、すなわち覚りを得るための「菩薩行」です。

実際に無(亡)くなることなく、「無空」の本質を覚り、多くの人々が「俺が俺」の我欲から解放されれば、社会や人間関係はきっと争いごとが少なくなるとしよう。おまじないを一句「おれがおれがのがを捨てて、おかげさまで」のげで生きよ。

多くの人に親しまれるご心経。ここまでで二百七十七文字について学びました。あと六十一文字です。頑張りましょう。それでは皆さん、来月までごきげんよう。合掌。

※



## かわら版執筆者 大塚耕平

日泰寺の地元、田代小学校、城山中学校を卒業。旭丘高校、早稲田大学をへて、日本銀行に18年間勤務。

2001年から参議院議員。元内閣府副大臣・厚生労働副大臣。地元の歴史・文化遺産の継承と振興のために「弘法さんかわら版」を執筆しています。今年で、足かけ15年目。

日銀時代に母校の大学院博士課程を修了(学術博士)。現在は、早稲田大学と中央大学大学院の客員教授も務めています。

好評発売中

弘法さんかわら版

弘法さんの生涯と覚王山

弘法さんかわら版

大塚耕平著

大塚耕平

弘法さんかわら版講座

仏教通史

仏教とは何か

インドから中国、朝鮮、そして日本へ  
仏教史と東アジア日本史を  
一気にとりこみ「新・仏教読本」

大法輪閣

大法輪閣 (仏教書の老舗出版社) 営業部: 電話 03-5466-1401

